

日本産業衛生学会

# 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会  
〒602-8048 京都市上京区下立売通  
小川東入ル  
中西印刷株式会社（日本産業衛生学  
会近畿地方会事務局支局）  
発行責任者・中西一郎（地方会長）  
<http://jsoh-kinki.jp>

## 新年のご挨拶



近畿地方会長 中西 一郎

新年あけましておめでとうございます。これまで経験したことがない状況下ではありますが、近畿地方会の皆様方には晴れやかなお正月をお迎えのことと存じます。

年頭に当たり昨年の地方会活動を振り返り、併せて今年の予定を述べさせていただきます。

まず昨年はコロナ禍での窮余の策として総会を書面で開催させていただきました。幹事会もオンラインで開催いたしました。総会の成立、幹事会の議事録につきましては近畿地方会のウェブサイトに掲載しております。また岡田邦夫学会長を中心に準備していただいております。第60回近畿産業衛生学会も中止の運びとなりました。地方会全体の行事は参加者も多く感染症対策や会場の手配と不測の折のキャンセル等にやりにくさがあり、また遠方からの演者にも直前の中止はご迷惑をかけること等々を総合的に判断いたしまして、開催を断念いたしました次第ですので、どうぞご了承のほどお願いいたします。

反面、小回りの利く地方会傘下の各部会や研究会はそれぞれの特色を生かし、工夫した上での実際の研修会開催や、オンラインで研修会、メルマガ配信等の活動を行いました。この誌面でご確認ください幸いです。

今年は6月の状況が読めませんが、総会は産衛学会の本部が行ったように人数をごく少数に制限して開催しようと考えております。例年の特別プログラムは担当の林朝茂理事がオンラインで開催を計画中です。2021年6月

19日（土）を予定しております。詳細は地方会サイトでご案内いたします。第61回近畿産衛学会は伊藤正人学会長を中心に2021年10月23日（土）に実際の開催の方向で準備中です。コロナの影響で先が読めませんが皆様ご予約くださればと存じます。

ニュースにつきましては総会の際の5月号と近畿産衛学会の前の9月に発行を計画しております。それ以外にもサイトを通じてタイムリーに情報を発信してまいる所存です。会計につきましてはニュース発行を半分にしたことにより単年度黒字を目標にいたします。

同時に地方会から会員の皆様へのご案内も郵便料金も上がりましたし、できるだけ電子メールでと考えておりますので、メールアドレスの登録をよろしくお願いたします。日本産業衛生学会のホームページにアクセスして会員番号とパスワードを入力し、「プロフィール変更」でメールアドレスを登録してください。パスワードを忘れた方は「パスワードを忘れた方」の所から入って所定の事項を入力してください。以下の図を参照。もしくは学会誌が送付された際の宛名用紙の裏面を利用ください。

最後になりましたが、今般の地方会の役員選挙で再任されました。引き続き会員の皆様に役立つ情報を発信しつつ、皆様とともに運営してまいりたいと存じますので、積極的なご参加をお願いいたします。本年の皆様のご健勝を祈念して新年のご挨拶といたします。

産業衛生学会ホームページ<https://www.sanei.or.jp/>



日本産業衛生学会  
Japan Society for Occupational Health

会員ログイン

会員番号(半角6数字)

パスワード

ログイン

パスワードがわからない方はこちらへ。

日本産業衛生学会  
Japan Society for Occupation

会員ログイン

名前ログイン

20/12/05 16:51

プロフィール変更

プロフィール変更の画面でメールアドレスを入力。

メールアドレス登録方法

# 2020年度日本産業衛生学会役員選挙結果報告

近畿地方会選挙管理委員会 委員長 津田 恵理

今選挙では近畿地方会の選挙人（有権者）は1070名、このうち選挙権及び被選挙権保有者は1045名のため、中央選挙管理委員会から割り当てられた役員数は代議員105名でした。近畿地方会細則に従い地方会会長および地方会監事は推薦および立候補、代議員は推薦により候補者を募りました。その結果、地方会会長候補1名、地方会監事候補2名と定数であったため、無投票当選となりました。また、代議員候補は394名となり、選挙人（有権者）数1070名にて日本産業衛生学会代議員選挙を

実施しました。

開票作業は2020年10月9日に行い新代議員を105名選出しました。投票率は40.2%でした。

理事候補5名の選出は代議員の互選により電子投票で行い、96名より投票がありました。開票作業は令2020年11月26日に行いました。なお、今回選出した理事候補者は、来年度日本産業衛生学会総会の承認を得て理事となります。

### ■近畿地方会 会長 (敬称略 定員1名)

氏名	得票数
中西 一郎	無投票当選

### ■近畿地方会 監事 (敬称略 定員2名)

氏名	得票数
鮫島 真理子	無投票当選
廣部 一彦	

### ■近畿地方会選出 理事候補 (敬称略 定員5名)

氏名	得票数
林 朝茂	45
森口 次郎	43
井上 幸紀	41
西田 和彦	37
中西 一郎	34
鈴木 純子	32(次点)

理事は日本産業衛生学会総会の承認を得て決定します

### ■近畿地方会 代議員 (敬称略 定員105名)

氏名	得票数
伊藤 正人	94
森口 次郎	58
黒木 和志郎	58
津田 由紀	50
岡田 邦夫	48
鮫島 真理子	47
津田 恵理	46
橋口 克頼	41
長見 まき子	37
森岡 郁晴	36
清原 達也	34

### ■近畿地方会 代議員 (続き)

氏名	得票数
村田 理絵	34
中井 栄	33
堤 梨恵	33
萩原 聡	29
福田 昌宏	29
藤吉 奈央子	29
井上 幸紀	28
林 朝茂	28
吉田 直樹	28
中西 一郎	27
佐藤 恭子	27
竹内 靖人	27
出雲谷 恭子	27
上原 新一郎	26
久保田 昌詞	26
鈴木 純子	26
竹下 達也	26
森山 和郎	26
木曾 真一	26
東 賢一	26
河津 雄一郎	25
中西 麻由子	25
濱田 千雅	25
平田 真以子	25
大島 由美子	25
大野 浩	23
垣本 洋希	23
杉浦 徹太郎	23
岩根 幹能	23
金山 周次	23
西田 和彦	23
植原 秀和	22
久保 とし子	22
大上 圭子	22
後藤 浩一	22

氏名	得票数
田中 紀子	22
守山 敏樹	22
篠原 将貴	22
櫻木 園子	21
豊川 彰博	21
森 雅子	21
内山 鉄朗	21
安田 恵理子	21
金澤 禎行	21
寶學 英隆	21
谷口 有紀	21
大塚 創平	21
深井 恭佑	21
米永 哲朗	21
柴田 幹子	21
中嶋 千晶	20
日野 孝	20
前田 宏明	20
森本 道雄	20
由田 克士	20
荒木 郁乃	20
益江 淑子	20
岡田 潮	20
森田 理江	20
清水 政彦	20
石神 真人	20
谷池 正行	20
土井 泰治	20
魏 民	20
三浦 克之	19
埜田 和史	19
中田 ゆかり	19
竹村 芳	19
山本 博一	19
三柴 丈典	19

氏名	得票数
藤田 周弥	19
佐藤 洋	19
猪阪 善隆	19
上田 晴三	19
池田 雅彦	19
堤 雄介	19
原 達彦	19
祖父江 友孝	19
一尾 直子	19
今野 英一	19
貝森 亜紀	19
柴田 泉	19
石原 宗和	19
瀧 秀樹	19
橋本 克次	19
小村 江美	19
康 秀男	19
北原 照代	18
坂本 史彦	18
八木田 あけみ	18
橋場 昌義	18
城徳 昭宏	18
栗原 敏修	18
森脇 博	18
奥野 優	18(次点)
藤田 智子	18(次点)
中村 千賀	17(次点)
長谷川 健	17(次点)

選挙細則に従いくじで順位決定

## 2020年度第2回幹事会議事録

日時：2020年10月28日（水） 18:30～19:50

Zoomでの開催

参加者：中西、井上、久保田、鈴木、西田、林、伊藤、上原、  
圓藤吟史、圓藤陽子、河津、清原、鮫島、祖父江、  
津田、堤、長見、濱田、廣部、平田、藤岡、丸山、  
村田、森岡、森山

事務局：河村

欠席者：森口、岩根、荒木

議事

### (1) 2020年度事業報告

配布資料で中西会長から説明があった。

### (2) 2020年度経費実行状況と2021予算案

配布資料で中西会長から説明があった。

### (3) 2021年度事業計画案

配布資料で中西会長、林理事から説明があった。第69回近畿地方会総会は書面委任状と少人数での開催で検討中、特別プログラムはWEB開催検討中である。また代議員会については総会時は総会と同様に委任状と少人数で、近畿産衛学会が開催の場合はその中での開催を計画している。各部会の計画は以下の通り。

産業医部会：伊藤部会長から研修会は近畿産衛学会内での開催を計画していると報告があり、幹事会で了承された。

産業看護部会：平田幹事から定例研修会と産業看護専門家制度「登録認定試験準備講座」を例年通り計画していると報告があった。

産業衛生技術部会：長見部会長から2021年3月20日に粉塵を中心とした研修会を開催予定であることと総会を近畿産衛学会に合わせて開催予定との報告があった。

### (4) 代議員選挙結果と理事選挙について

津田選挙管理委員長から報告があった。メールを登録していない会員が1割強おられ、投票率向上のための課題であることが報告され、幹事で手分けしてメール登録を呼びかけることとした。また、電子選挙システムで現在1000人の制限がある被投票人を増やすことを本部が鋭意努力中とのことである。

### (5) 若手活性化のための研修会・勉強会等イベント

久保田理事からテーマ開催方法について検討中との報告があった。

### (6) 第61回近畿産業衛生学会（2021年）の進捗状況

伊藤学会長から報告があった。テーマは「大変革期の産業保健」を考えており、今の所315名定員の会場を半分から2/3程度の人数で開催し、懇親会はなく、シンポジウムは3部会が参加するようなものを計画している。

### (7) その他

1. 地方会ニュースの発行状況とHP更新状況について清原幹事から報告があった。コロナ禍のためサイトの閲覧数は減少している。また、幹事から地方会ニュースのウェブサイトへの掲載が滞っているとの指摘があり、対応することとなった。
2. 本部理事会について井上理事から報告があった。学会参加者が増え地方の会場では入りきらない問題について、2023年東京の開催以降は5大都市で年次学術集会を開催することとなった。第94回の本学会（松本）は、リアルとwebのハイブリッド開催の予定。参加者は発表者優先とのこと。自由集会はなしの予定。2022年の本

学会は高知市で5月25-28日で計画されている。全国協議会は次回は三重県で12月に予定されている。

3. その他 鈴木理事から地方会独自でweb会議のアカウントをもってはどうかと提案があり、検討することとなった。

以上

## 第25回近畿産業医部会研修会開催報告

### コロナ禍でのWEB開催



大阪市大・医・神経精神

井上 幸紀

「こんなはずではなかった！」が正直なところ。近畿産業医部会実行委員を前年に引き受けたのですが、春頃には9月の通常開催は困難と覚悟しました。ただ近畿地方会員の、そして医部会員の貴重な交流の場ですし、単なる中止ではなくWEBで開催できないか、と中西一郎近畿地方会長、伊藤正人医部会長とも相談しつつ、試行錯誤が始まりました。最近でこそZoomや音声付動画ファイルのビデオオンデマンドなどで様々な学会が開催されていますが、業者に頼むと巨額赤字確実です。Zoomなどセミリアル開催では遠隔トラブルに対応困難、ビデオオンデマンドではファイルサイズが大きすぎてやり取りできない、など次々と困難が発覚していきました。そこで、ウェブ作成に明るい事務局・産業保健アシスト様と相談し、地方会事務局レベルで対応できる範囲で計画しました。具体的には、投稿いただいた原稿をPW付き医部会サイト上にPDFで置き、参加登録者に見ていただきました。質疑応答もメールで受付け、回答をまとめてPDFとし掲載しました。会期は2020年9月、1ヶ月かけての医部会となりました。

メインテーマは今一番必要であろう「新型コロナウイルス感染症禍の産業保健」とし、基調投稿を国際医療福祉大学・和田耕治教授にお引き受けいただきました。パネリストを指名し、産業保健体制、企業の防疫管理体制、メンタルヘルス、行政対応、分散事業所対応、様々な事業所対応、海外勤務者対応、在宅勤務などのご投稿をいただきました。WEB開催であったからこそじっくりと読めた、資料サイトなどの文章情報を共有できたなど、今回の形式にもメリットがあったようです。

今回の医部会開催は最小限の実施実績かもしれませんが、ただそれでも近畿地方会の活性化に一役買ったのではないかと、思っています。お陰様で医部会員以外を含め100人以上の登録があり、皆様の熱い想いも知ることができ、担当させていただいてよかったと思っています。関係各位に改めて御礼申し上げますとともに、この形式は今年だけで、来年は皆様とリアルにお会いできることを祈念してやみません。

## 「学会としてのダイバーシティの歩みとこれから」

大阪労災病院 久保田 昌詞  
大阪産業保健総合支援センター 鈴木 純子

2018年5月の日本産業衛生学会総会で非常設委員会として承認されたダイバーシティ推進委員会は、2016年に生まれた「男女共同参画小委員会」が前身です。当時、学会副理事長だった川上憲人先生と近畿地方会選出理事の鈴木純子が創成期に関わり、野原理子小委員会委員長（当時）の元で4部会（産業医部会、産業看護部会、産業技術部会、産業歯科部会）選出の委員で、本学会における男女共同参画の基盤整備・推進の方策や、女性だけでなくすべての会員が活躍できる方策について検討していました。川上先生が理事長に就任された後は久保田も関わり、より広範に活動を拡げていくべく「ダイバーシティ推進委員会」として格上げされました。その後、4部会と各地方会から委員を募り、互選で選ばれた西賢一郎（産業医部会、東海地方会）初代委員長のもと、2018年9月に正式にスタートしました。

ダイバーシティ推進委員会の活動目標は表のとおりです。多様な職種からなる本学会だからこそ、まずは学会に参加してプレゼンスを示して頂き、そしてそれぞれの能力を最大限に発揮して頂けるよう環境を整えつつ、最終的には様々な観点からのequalityを追求していくことを目指しています。委員会活動としてはまだ緒についたばかりですが、現時点で特に力を入れて取り組もうとしているのが、若い世代の学会への積極的参加に向けた支援活動です。特に子育て世代の会員がキャリアを継続するためにリアル学会に参加するには、同伴する子供の託児や旅行費用の問題など重い負担を強いられています。そんな方々に少しでもお役に立とうと、今年度は各地方会選出委員の活躍で、『学会』へ行こう！—子育て中の学会参加ヒント集—（仮）が出来上がりました。近い将来、学会ホームページに載せる予定です。

また、先日の第30回日本産業衛生学会全国協議会では11月22日に委員会主催のシンポジウムがWEB開催され、特に学会への参加をめぐる課題について議論されました。2020年9月末から10月上旬に委員会が行ったアンケート調査結果（速報）が解説され、世代を問わず

学会に参加できなかった経験者は8割以上にのぼること、学会参加・活動を業務として会社に理解してもらうことの困難などの課題、（子育て等で）勤務中断中の学会からの各種支援への要望などが示されましたが、一方で、学会運営に携わりたいという意欲のある会員も4割おられました。このことは本学会発展への一つの光明と受け止めています。

同シンポジウムではゲストとして京都大学大学院糖尿病・内分泌・栄養内科学助教 池田香織先生をお招きし、日本糖尿病学会「女性をpromoteする委員会」の活動の様子をご紹介頂きました。女性医師会員の比率が26%と高い同学会では、2012年から男女共同参画としての取り組みを進めてこられ、「女性が一番輝ける学会」を目指しています。同学会では、eラーニングで更新単位が取得可能な専門医制度、学会会場における託児所の充実、座長・演者に占める女性比率の増加、女性医師Awardの設立やホームページにおけるロールモデルの紹介、理事長の意思表明など様々な取り組みをしておられるほか、地方会単位で男女共同参画に関わるシンポジウムも定期的で開催され、それが同学会の文化にもなっているとのお話が印象的でした。現時点では医師についてのみの取り組みであり、今後は他の職種に向けた活動の必要性も話されました。

日本産業衛生学会では男女比はほぼ拮抗しているほか、医師、保健師・看護師、歯科医はじめ、特に産業技術部会を構成する会員には様々な職種の方々がおられます。個々人の、職業に根ざした多様な考え方を学会として共有しつつ、個々の能力を最大限に発揮していただけるような取り組みを、まずは近畿地方会から始めませんか？すでに濱田千雅先生（大阪ガス）、岩根幹能先生（日本製鐵（株）関西製鉄所）、荒木郁乃先生（積水化学工業（株））らが若手活性化プロジェクトを始動してくれています。コロナ禍でリアルな研究会等は開催困難な状況ですが、この活動を嚆矢としてダイバーシティ活動が学会に展開されていくことを強く願っています。

### ダイバーシティ推進委員会の目標

1. 次世代の産業衛生学の担い手を育てるため、女性や若手会員への啓発、広報を行い、会員のモチベーション向上を促し、研究や活躍の場をつくる。
2. 成長途上の会員が産業衛生学に取り組む上での問題に直面した際、孤立を防ぎ、高い専門性を維持してキャリアを途絶えさせないシステムを構築する。
3. 若手世代が参加しやすい学会運営を目指す。
4. 各部門のリーダーとなる会員を性差なく押し上げ、男女均衡ポジティブ・アクションのあるべき姿を提示し、男女共同して産業衛生の研究・教育の充実をはかる。

## 第30回産業衛生学会全国協議会の報告

## 第30回産業衛生学会全国協議会に参加して思うこと

ユーサイキア株式会社

上田 伸治

このたびご縁あって全国協議会に初めて参加しました。春の学会には1996年以来参加していましたが、これまでよく知りもせず全国協議会に参加していなかったことを大いに反省しています。と言いますのは、その内容の充実ぶりに驚きと称賛の意を禁じ得なかったからです。企画運営委員長の小田原努先生や実行委員長の彌富美奈子先生をはじめとするスタッフの皆様、そして各種講演をなされた先生方や演題発表をなさった先生方に敬意を表します。

さて、メインシンポジウムのテーマ「多様性を支える産業保健」に端的に示されているように、産業保健がカバーする対象は人においても分野においても極めて多様になって来ています。それに伴い、法律や経営やコンピューターサイエンスなど異種分野との協業がますます求められています。その多様性と勢いに戸惑いを感じる人も少なくありません。

私は産業医として独立した2008年頃から「産業保健の原点となる哲学とは何か」という課題に心を惹かれています。多種多様な分野との協力が必要であればこそ、その目的が人の健康、生命、人生にあることを踏まえて、医学や保健を担う者が根を深く張り、幹を太くして、他分野との協業を支えなければならないと思うのです。

私の思索はまだ未熟ですが、その一端を述べておきます。医学には「廃用性障害」という概念があります。それは、使わない器官や機能は退縮する、という人体の基本的な性質によるものです。私には産業保健が抱える問題の多くはこれが底流にあると強く感じています。もしそうなら「保護的」な支援は根本から考え直さなければなりません。安全衛生対策においても「うっかりしても怪我をしないように」と作業環境を改善し過ぎるのは良くないかもしれません。

ともあれ全国協議会への参加を通して、複雑性が増す時代に適応し発展成長し世に寄与し続けるために、これからも学び続けようと思いを決意しました。

## 第30回産業衛生学会全国協議会の報告

## 全国協議会に参加して

Harmony ～Life &amp; Work～

藤吉 奈央子



第30回の全国協議会は『多様性を支える産業保健』をテーマとして鹿児島で開催される予定でした。鹿児島での開催と聞いた時は、NHK大河ドラマの“西郷どん”に私は“はまって”いたので訪れた事のない桜島を想像しながら参加を楽しみにしていました。ただ、現実目に向け“鹿児島で参加する時間が取れるか…”と少し心配もありました。そのような中、新型コロナウイルス感染症の蔓延のために、誌上及びWebでの開催が決定しました。まだ見ぬ桜島には会えないままで残念な気持ちはありますが、期間中の空いた時間に、またシンポジウムのまとまった時間が取れない時は演者の先生ごとに拝聴することや、もう一度確認したい内容を巻き戻して確認するなど、オンライン開催のメリットを最大限に活かし参加させて頂きました。

多様性ということテーマの一つとしていた協議会だけあって、それぞれのシンポジウムなどで様々な角度の多様性についての発信がありました。特に私が印象に残ったのは4部会合同シンポジウムで労働者の高齢化に焦点を当てたものでした。

“高齢化は誰もが迎えるダイバーシティ”といったメッセージもあり、まずは壮年期の頃から、高齢化によって起こり得る問題を想像できるような“気づき”を与える事、また作業環境をより丁寧に整えることで多くの人を受け入れやすくなる産業保健現場を目指す重要性も述べられていました。

また、私自身、重要と思いつなかな学びを深めることのできていない歯の問題についても認知症や要介護認定の関連などについても紹介されており、まずは健康診断の中で歯についての問診票を入れることで“歯に対する意識を高める”というアドバイスは非常に現実的で早速活用してみようと思いました。

ポスター発表はライブセッションであり、拝聴は一部となりましたが、会場のようなポスターではなくパワーポイントを使っただけの発表でしたので、人が多く見えにくい、聞こえにくいということもある会場とは違い、しっかりと内容を確認することができました。発表の内容もコロナ禍における労働者のストレスに着目したものが多く、非常に勉強になりました。また今後考えられる負の影響についても事前に予防するための対策を考える一助になりました。また思った以上に質問も出ており、会場さながらの熱量を感じました。

最後になりましたが今回の協議会の実行委員の先生方、有意義な学びの場をありがとうございました。会員の皆様にお会いすることは出来ませんでした。子育て中の私にはとても有難い参加形式でもありました。“参加してよかった！”とリアルタイム参加と同じ位の満足度を持ち、この感想を書きました。

## 職業性筋骨格系障害研究会報告

## 慢性作業関連性運動器疼痛の予防及び治療の最前線～「産業医慢性痛セミナー」を共催して～

滋賀医大・医・社会医学・衛生  
(近畿地方会職業性筋骨格系障害  
研究会(近畿 WMSD 研) 事務局)  
北原 照代



2020年11月21日(土)14～17時、「産業医慢性痛セミナー」が、メイン会場・滋賀医科大学とサブ会場・大阪府保険医協同組合会館にて、オンライン併用で開催されました。参加者は計91名(滋賀28名、大阪48名、オンライン15名)でした。同セミナーの主催は「令和2年度厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業—近畿地区—」、共催は近畿 WMSD 研の他、滋賀県医師会、滋賀県産業医会、大阪府保険医協会産業医対策委員会でした。北原が司会進行を務めました。

滋賀県産業医会会長・中西一郎先生のご挨拶の後、滋賀医科大学附属病院学際的痛み治療センター・理学療法

士の久郷真人先生が、慢性作業関連性運動器疼痛(以下、Chronic WMS pain)に対する集学的治療について講演しました。同センターでは理学療法士、臨床心理士、医師など多職種連携で治療にあたり、長期休業からの復職事例も紹介され、Chronic WMS pain 治療の今後に期待がもてました。次に、同病院麻酔科の中西美保先生が、Chronic WMS pain に対する漢方治療の実際を講演されました。麻酔科専門医かつ東洋医学専門医として具体的な処方例を挙げて解説されたことが、参加者から好評でした。続いて、近畿 WMSD 研メンバーでもある大阪社会医学研究所所長の中村賢治先生が、WMSD の予防と職場復帰支援について講演されました。作業現場の写真を提示しながら予防の基本と復職支援の具体例を述べ、産業医にとって実践的でわかりやすい内容でした。最後に主催者として、滋賀医科大学医学部附属病院・病院教授の福井聖先生が、モデル事業の柱の一つである「産業界で発生する慢性疼痛診療連携事業」を紹介し、参加者への協力を要請しました。平成29年度から開始された同事業により、近畿ではネットワークが構築されつつあります。各種セミナーも積極的に実施されていますので、関心のある方は、下記ホームページをご覧ください。

<http://painkinki.html.xdomain.jp/index.html>

## 2020年度・地方会・「産業精神衛生研究会」報告

精神科医 夏目 誠

産業精神衛生研究会は新型コロナ禍で延期をしましたが、感染予防対策を行い、開催することができました。このような状況で58名と多くの方が参加、ストレスチェック・「集団分析対応」への関心の深さが実感できました。

**座長**は富士通関西の産業医である谷口結紀先生、演者は精神科医の夏目 誠、近畿健康管理センター理事長で産業医の木村 隆先生の2名です。

**夏目**：私が「医師の面接指導」を行っている企業の集団分析対応を報告。高ストレス者が占める比率(25%超え)が高い職場を対象に、「所属長と私、担当保健師、人事部管理者」の4者で面談を行ったのです。高い要因を検討し、対応について話し合いました。1年後に、4職場中3職場で比率が低下。この方式のメリットは立場が異なる4者がざっくばらんに話し合うことで、要因が把握しやすく、人事参加で対応が速やかに行われたことです。

**木村**：職場のメンタルヘルスにおいて、ストレスチェックの集団分析は産業環境改善、作業改善に有用です。57項目の簡易調査票には不満の声もありますが、同じものを使用することによって、

時系列や他集団と比較できる点が便利です。様々な事業場での分析結果はほぼ予想通りで、日頃から感じていることを数字で表現できるため、メンタルヘルス対策を進めるに関係者への説得材料となります。

集団分析は部署別職位別に加え、生活習慣や健康診断結果による属性でも分析も可能であり、産業保健職が必要と感じている施策を推進するための活用が望まれます。

**座長**：新型コロナの流行により在宅勤務の増加など大きな変化が職場で起きています。新たなストレスの増加もあり、メンタル不調者は決して減少していません。夏目先生、木村先生のご講演を拝聴して、このような状況だからこそ、ストレスチェック、集団分析の重要性を再認識し、より良い職場環境のために生かすことが必要だと思いました。

**演者間の意見交換やフロアーとの活発な議論**がありました。夏目は木村先生の、集団分析結果を、産業保健職が必要と感じている施策推進のために活用すべきだ、の意見が学びになりました。



私たちの職場 (42)

## 医療法人 健人会 那須クリニック

関西検診協会  
高橋 由香

### クリニック概要

私たちのクリニックは定期健康診断、生活習慣病健診、人間ドックなどの健診を実施しています。1977年大阪市西区で関西検診協会を設立し巡回による企業健診を始め、1984年に淀川区へ移転、その後1999年に医療法人健人会那須クリニック関西検診協会と改め現代に至ります。所在地は、大阪メトロ御堂筋線西中島南方駅から徒歩3分、阪急南方駅から徒歩5分、JR新大阪駅から徒歩10分と、3路線の駅から徒歩近く、アクセスに大変便利な場所です。周囲はオフィス街で飲食店も多く、健康診断の帰りにグルメサイトなどに出ている人気店での食事を楽しみにしている受診者様も多いです。6階建てのビル全フロアが当クリニックで、1階は駐車スペース、2階と3階が健診会場、4～6階は事務エリアとなっています。常勤職員は医師5人、保健師5人、看護師12人、放射線技師2人、臨床検査技師3人の他、営業、事務員、健診車運転手など45人、非常勤やアルバイトの職員を含めると134人が健診業務に従事しています。

### 健診実績など

2019年度は、年間約126万人、このうちクリニックでの健診は2.8万人、事業所や協会けんぽの集団健診などへ出向く巡回健診は9.8万人で、巡回健診の占める割合が78%と圧倒的に多く、巡回健診用のレントゲン車7台と巡回健診スタッフはフル稼働で頑張っています。また、2020年4月からマンモ車を導入しました。更衣室はカーテンなどの簡易な間仕切りではなく、個室4室を備えており、医師・看護師・放射線技師は女性が担当し、安心して受診いただけるよう配慮しています。まだマンモ車の出張件数は多くないのですが、少しずつ稼働率を上げていく予定にしています。その他、特殊健診にも力を入れており、昨年度実績は約1.4万人でした（上記すべて延べ人数）。

### その他の活動

#### 保健指導

協会けんぽの巡回集団健診では健診と同時に保健指導を実施し、クリニックにおける健診では協会けんぽの他、企業健診においても当日保健指導を実施しています。当日の指導が難しい場合や企業の巡回健診では、後日に



那須クリニック職員メンバー

筆者の高橋由香先生は写真前列左から2番目（右から3番目）

ICTを活用した指導を行うなど、保健指導の機会をできるだけ逃さない工夫をされており、利用者様からは大変好評をいただいています。

#### 放射線読影

放射線読影では肋骨減弱画像を導入しています。また、画像を受診者別にバーコードで管理し、過去画像を自動的に抽出して経時差分画像処理を行うことにより、読影の精度を上げています。

#### 職員の教育

接遇教育の他、安衛法に係る健康診断について確かな情報をお客様に提供できるよう、営業職や事務職員全員が入職後できるだけ早期に衛生管理者の資格を取得することを目指しています。

#### 各種委員会など

リーダーミーティング（常勤医師全員と部門責任者が出席し、各委員会での決定事項を共有、議論する場）、判定委員会（健診結果判定、精度管理、健診項目の見直しなどを議論する場）、個人情報管理委員会、衛生委員会を毎月、新型コロナ対策委員会を随時開催し、どうしたら皆様により満足いただける健診ができるのか、どうしたら皆様の健康管理・向上の支援ができるのか、日々考えながら、より良い健診を実施することを目指しています。

#### 最後に

私たちクリニックの理念は、人への愛情、チームワーク、知識・技術の向上を堅持し、皆様の健康、さらには社会福祉への貢献を謳っています。この理念に恥じないように、職員一同、日々の努力を続けたいと考えています。



マンモ車外観



マンモ車内装置



那須クリニック外観

## 会員の声



### 私のメンタルヘルス不調者への取り組み

三菱電機（株）コミュニケーション・ネットワーク製作所 産業医

千森 義浩

私は循環器内科医として、虚血性心疾患、不整脈、心不全等の診療に28年間従事しております。その中で生活習慣病の最たる合併症とも言うべき動脈硬化性疾患は、発症に様々な要因が関与するものの若年～中年期の生活習慣によるところが大きいと強く感じています。そこでその世代にあたる労働者層の衛生及び健康管理に寄与することもとても重要だと考えるようになったのが約3年半前に常勤産業医に転向した大きな理由でした。この決意に際して大学院時代に嘱託産業医を経験していたことから大きな躊躇はありませんでした。

生活習慣病をはじめとしたフィジカルの疾病や禁煙への取り組みは、これまでの知識や経験を生かして労働者のお役に立てるよう努力しています。また「治療と仕事の両立支援」をガイドラインに沿って取り組む事例もあります。しかし本稿では実際に遭遇することの多いメンタルヘルス不調者への取り組みを紹介させていただきます。

\*\*\*\*\*

### 労働衛生コンサルタントとして

(一社) 産業安全衛生研究所

桑村 明男

企業で従業員の安全衛生・健康管理を担当する部署で仕事をしてきました。そこで必要性を感じ、数年後労働衛生コンサルタント(保健衛生)試験を受験し資格を取得しました。

職場では安全衛生委員会の議長や産業医との連携、健康診断の実施および結果の分析を主として担当していました。この経験が退職後の活動に役立っていると思います。

60歳で定年退職し、一般社団法人を立ち上げました。立ち上げ後、しばらくして近畿の中堅企業A社から安全衛生、健康管理のコンサルテーション全般の依頼を受けました。

このA社と安全衛生・健康管理体制の構築を行っていく過程で、非常に勉強になったことがあります。

それは、まず安全衛生・健康管理の目標をしっかりと定めるということ。基本的な課題ですが、ここを外すと活動が成り立たなくなります。会社側担当責任者としてしっかりと目標を議論しました。

その結果、健康管理に関しては、まず健康診断結果から有所見者を選出し、傾向等の分析を行い、有所見者の減少につなげることを目標とし活動をスタートしました。健康

今年はウイズコロナ下で、出社と在宅勤務との組み合わせになることが多くなっています。これ自体に起因して大きなストレスを抱える労働者は見かけませんが、製造業であるが故の高度な発想や技術を求められる場合や働き方改革の裏で業務密度が高くなった場合等にメンタルヘルスに不調を来たして休業となるケースが散見されます。

そうなれば自宅療養を余儀なくされる訳ですが、厚生労働省発表による「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」での5ステップからなる職場復帰支援の流れとして、主に主治医が関与するのは第2ステップまでとなります。職場復帰可能の診断が出ても通院や服薬の継続を必要とするケースが多いですが、主治医からは十分に見えない職場環境を見据えての細やかな対応が求められます。いかにその後のステップも再発防止に重要であるかを痛感しています。

労働者本人の意思や会社の意向を調整して職場復帰支援プランを策定し、カウンセリングやリワークの設定やフォロー、さらに労働者本人と主治医とのやり取りに疑問を持つケースには、本人の同意を得た上での主治医との面会も通して、より良い復職や勤務継続ができるよう取り組んでいます。

最後に保健師、安全衛生管理者ならびに人事労務関係者諸氏のご尽力に感謝いたします。

診断の受診者は当時約5,000人でした。多くの企業では当然やっておられることですが、当時のA社はまだこの段階でした。

まず、直近の健康診断結果において主に要精密検査以上の方をピックアップした上で、産業医、保健師と小職の三人で内容をチェックし、さらに有所見者の過去の健診結果も併せて精査しました。その上で対象者をさらに絞り込み優先順位をつけて保健師による保健指導を面談(一部は電話)で行いました。

そしてそれと同時に事業所別、担当職場別、年齢・性別、勤続年数別等に有所見率と内容を集計し、傾向を調べました。

その結果、保健指導は対象者の97%の方に実施することが出来ました(3%は退職等で実施できず)。また、有所見率と内容を分析した結果、年齢以外では有意差はなく安心しました。

この活動をスタートして10年、今では対象者も約8,000人に増えました。ただ、残念ながら有所見率は当初目標としたほど減少していません。原因は従業員の高齢化です。当時、60歳だった定年が現在は68歳に引き上げられました。

今後の課題として、高齢従業員への健康増進を図る活動の促進、さらに有所見にも拘らず受診しない従業員への受診促進を進めていきたいと思っています。



## 二足のわらじを履いて

奈良県立医科大学医学部 公衆衛生学

野田 龍也

私は公衆衛生系の大学研究室に所属しておりますが、2008年5月のヤマハ（株）本社（静岡県）を皮切りに、非常勤産業医や労働衛生コンサルタントとして14社25事業所に勤務してまいりました。

事業所のいくつかは、心理面での就労環境が非常に悪く、精神的な不調による休退職が続出しておりましたが、全職員200名との面談をおこなったり、鍵と思われた上長の方々と何度も膝詰め話したり、場合によっては、本社の役員会に直接掛け合って改善を勧告するなど、非常勤らしくない（むしろ非常勤だからこそできる？）産業医活動を進めました。手探りで活動でしたが、ある事業所ではストレスチェックのスコアが大きく改善し、ある会社では全社統括産業医に上げていただくなど、一定の客観性をもって、働くみなさんの労働衛生向上に貢献できたように感じております。

次に、所属機関をご紹介します。私が所属する奈良医大公衆衛生学講座は、車谷典男先生のおられた疫学・

予防医学講座と同じフロアにあります。教員、事務補佐、大学院生、博士研究員など50名以上が在籍し、国の医療計画、地域医療構想、食品防御、チーム医療、ギャンブル障害など、大小100前後の研究が走っております。特に、レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）の分析は、我が国の1億人全員の匿名受診データを取り扱う野心的な研究開発であり、講座の研究活動の大きな柱の一つとなっております。現在、NDBは国の医療計画、循環器、難病、糖尿病、HIV/AIDSなど各分野での政策実装や臨床研究が始まっており、今後、産業衛生を含むさまざまな分野への展開が予想されるどころです。

データベースの研究は、何千万人、時に1億人分の情報を匿名で扱うもので、いわば「鳥の目」です。他方、産業衛生活動は顔の見える、声の聞こえる対応が中心ですので、「虫の目」と言えます。この2つは異なる活動のように見えて、実際には、一方が他方を進める上での有益な情報やエビデンスを提供する相互関係にあります。産業衛生活動とデータベース分析という二足のわらじをうまく履くことで、新しい局面を切り開いてまいりたいと考えております。今後ともよろしく願い申し上げます。

\*\*\*\*\*



## 新型コロナウイルスによるピンチをチャンスに！

(株)村田製作所 健康管理室

大石 彩

私が村田製作所に入社して3年目になります。「新たな健康管理施策の企画をし、会社に貢献できているな」と実感し始めた時です。新型コロナウイルス発生のニュースが飛び込んできました。私は、自身の業務のやり方を大きく変えざるを得ないピンチに陥りました。そして、先の見えない不安の中で、この経験したことのない状況をどのように乗り越えていけばよいのかと思いました。一方で、「健康・安全」に対する従業員の意識が急速に高まり、保健師の私にとってチャンスも訪れました。

緊急事態宣言発令の直前から、保健師の役割が急に大きくなりました。例えば、社内での在宅勤務率が上がった数日後には、私は在宅勤務を健康的に行うノウハウ集を作成し、全従業員に周知しました。同宣言の発令後は、

より感染予防が大切になるため、広報部からイントラネットで、従業員に新型コロナウイルスの正しい知識を周知してほしいとリクエストされました。わかりやすい資料をスピーディに作成することは大変でしたが、今まで広報部との連携は全くなかったのが、彼らが保健師の存在を知って頼ってくれたことを嬉しく思います。

弊社には海外拠点もあります。私は、新型コロナウイルスによりロックダウンした拠点にいる出向者の生活や行動が制限されることによる、心身への影響を心配しました。そこで、グローバル人事部と協働して、ロックダウン地区の出向者に対して健康状態の確認を行いました。日本にいる私には、連絡を取ることもしかできないもどかしさがありました。しかし、「気にかけてくれてありがとう」という出向者の言葉に、心身面で力になれたと、やりがいを感じることもできました。

従業員の健康面を考えると、新型コロナウイルスは感染リスクだけでなく生活習慣の悪化などの悪影響もあります。今後も、私からの積極的な情報提供やサポートにより、この新型コロナウイルスを、従業員の健康意識を変えるチャンスにしたいと思います。

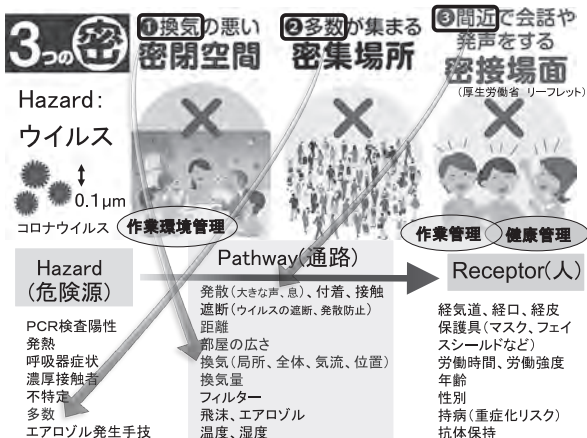
# 「ハザードに近いところで防止を意識しやすい 新型コロナウイルス対策チェックリスト」ご紹介

南森町 CH 労働衛生コンサルタント事務所 代表 医師 辻 洋志

職場の衛生管理は健康障害発生プロセスである Hazard (危険源) ⇒ Pathway (通路) ⇒ Receptor (人) の3段階を意識した課題の分析と、リスクをゼロに近づけるためのハザードに近いところでの対策 (例: ハザードを無くす、減らすなど作業環境管理) が効果的である。職場の新型コロナウイルス対策も同様であり、効果的な対策実施のため、日米3つの公的機関が出版した対策チェックリストをもれなく精査し改編したチェックリストを紹介する。是非、職場巡視等に参考にして頂きたい。

【職場の衛生管理】 厚労省3密リーフレット参照

【日米3つの公的機関が出版した対策チェックリスト】



引用資料：日米3つの公的機関が出版した対策チェックリスト

1. 職場における新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するためのチェックリスト 厚労省 2020年11月27日
2. 医療機関等における産業保健活動としての新型コロナウイルス対策 日本医師会 2020年5月15日
3. Resuming Business Toolkit 米国CDC 2020年5月27日

## 〈チェックリストの使い方〉

- ⇒なるべく多くチェックを満たすことで、職場の新型コロナウイルス感染の予防が期待できる
- ・前半のチェックリストほどハザードに近いため対策の効果が大きい
- ・赤いチェックボックス☐は専門医としての筆者が特に勧める対策 (赤☐は秋、春。黒☐は冬には加えて行っておきたい対策)
- ・全てのチェックボックス☐を満たせなくてもよい
- ・チェックリスト中のGはガイドライン該当ページを示す (更新の可能性あり最新のガイドラインを参照)  
 日本渡航医学会、日本産業衛生学会：職域のための新型コロナウイルス感染症対策ガイド第4版 (12.15更新)  
<https://www.sanei.or.jp/images/contents/416/COVID-19guide1215koukai.pdf>

## 〈チェックリスト〉 紙面の関係上、一部掲載。

チェックリスト (原本) はこちらでダウンロード可能 <https://jsoh-kinki.jp/ak6ieig8z/>  
 検索：日本産業衛生学会近畿地方会 パスワード：c9QzrsNy 2月28日までDL可  
 エクセルファイル：「ハザードに近いところで防止を意識しやすい新型コロナウイルス対策チェックリスト」

## ハザードに近いところで防止を意識しやすい新型コロナウイルス対策チェックリスト

### 〈作業環境管理〉

#### ハザードを無くす

対応済	検討中	該当なし	チェック項目	課題
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	受診、検査のための就業配慮を行う	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	感染者への対応 (G:p18)	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	PCR 検査陽性者は感染症法に従い就業禁止	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	感染者の職場復帰 (G:p19)	

#### ハザードを減らす：健康観察

対応済	検討中	該当なし	チェック項目	課題
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	発熱、呼吸器症状などあれば出社させない	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	就寝前、出社前に検温	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	出社時に検温（非接触式、サーモグラフィー）	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	発熱や風邪症状を認める者の職場復帰 (G:p17)	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	濃厚接触者への対応 (G:p19)	

#### ハザードを減らす：手洗い

対応済	検討中	該当なし	チェック項目	課題
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	業務開始前必ず手洗い（石鹸、エタノール $\geq$ 60%）	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	視覚で行動を移せるよう矢印などで工夫	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	正しい手洗いの方法の表示	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ペーパータオルの設置	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	消毒用アルコールを職場に備え付ける	

#### ハザードを減らす：共用部分消毒

対応済	検討中	該当なし	チェック項目	課題
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	通路（ドア、手すり、エレベーターボタン）	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	共用ワークステーション（PC、マウス、机、椅子）	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	更衣室	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ロッカー	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	休憩所	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	喫煙所	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	食堂（机、椅子、食券機、自販機）	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	トイレ	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	手洗い場	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	給湯室	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	消毒手順を定める	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	タッチレスにする	

\*チェックリストは全部で7頁あります。その内の1頁目を掲載させて頂いております。近畿地方会ウェブサイトでは是非ダウンロードしてご使用ください。

## 産業看護部会からのお知らせ

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、参加者、関係者の健康と安全面を考慮した結果、「産業看護職研修会」を中止とさせていただきます。何かできるものとは考え、部会員対象にメールマガジンを定期的に配信することにしました。6号では、これまで配信した内容についてのご意見や感想についてアンケート調査を実施しました。調査の結果は今後の活動に反映させていきたいと考えております。

2021年度研修会開催予定です。新型コロナの影響もあり、未定部分が多いので、最新情報は産業看護部会ホームページ、近畿地方会産業看護部会ホームページでご確認ください。

### ○2021年度定例研修会のご案内

日 時：2022年1月開催予定（Web開催）  
内容、講師について検討中

### ○産業看護部会本部研修等の開催予定

#### ①第1回日本産業衛生学会産業看護部会学術集会

テーマ：「産業保健看護の未来を創る～プロフェッショナルリズムの探求～」

開催日：2021年9月4日（土）9：45～17：00

開催方法：オンライン、オンデマンドのハイブリット方式（検討中）

#### ②【基礎研修A・Bコース】

「産業保健看護専門家登録者試験」合格者向けの集中研修「基礎研修Aコース・Bコース」は合計50単位取得できる研修です。初めてのオンライン研修になります。新人研修、学び直し研修等としても受講可能です。

〈Aコース〉日 時：2021年3月4日（木）～6日（土）

〈Bコース〉日 時：2021年8月予定

#### ③「登録者認定試験準備講座」（研修方法未定）

2022年1月に開催予定されている産業保健看護専門家制度の「登録者試験」を受験される方のための準備講座です。「登録者試験」は保健師国家試験レベルの出題となり広範囲のため、登録者試験を受験予定の方は自己学習に活用ください。

講義内容：公衆衛生看護学全般

研修時期：2021年秋予定

産業看護部会本部研修等①②③の詳細、申し込み方法は産業看護部会ホームページでご確認ください。

産業看護部会 HP：http://sangyo-kango.org/wp/

近畿産業衛生学会産業看護部会 HP：

https://jsoh-kinki.jp/kinki-002/

## 産業衛生技術部会からのお知らせ

2021年3月20日（土）13時00分～16時45分に中央労働災害防止協会 大阪労働衛生総合センターにて「溶接ヒューム及び塩基性酸化マンガンの法令改正」をテーマに2021年度産業衛生技術部会研修会を実施します。

以下のように4つの話題があり、大変充実した内容となっています。(1) 粉じんおよび溶接ヒュームの測定・対策について（中央労働災害防止協会大阪労働衛生総合センター 分析測定室 小川善弘氏）、(2) 関西の事業場における近年の粉じん問題と特化則改定について（厚生労働省大阪労働局労働基準部健康課 西山 賢氏）、(3) 粉じん及び関連物質（マンガンの）の許容濃度について（近畿大学医学部環境医学・行動科学教室 東 賢一氏）、(4) 定量的フィットテスト（株式会社重松製作所営業本部企画部 渡邊 雅之氏）。定員：15名（先着順で受付、定員になり次第受付終了）参加費：無料 受付方法は近畿地方会ホームページ「産業衛生技術部会からのお知らせ」欄にて案内いたします。

2021年度産業衛生技術部会総会を10月23日（土）に開催予定の第61回近畿産業衛生学会会場（パナソニックリゾート大阪）において開催予定です。会場や開催時間などの詳細はホームページおよび次号にて紹介いたします。皆様、奮ってご参加宜しく願ひ致します。

近畿産業衛生技術部会長 長見 まき子

## 大学・部会・研究会の連携プロジェクトからのお知らせ

### 第9回研究室訪問（WEB）

奈良県立医科大学 疫学・予防医学教室（佐伯圭吾教授）

WEB開催日：2021年2月20日（土）13：00～15：00

講演内容やWEBについてのご案内は、後日、近畿地方会ホームページに掲載し、一斉メールでもご連絡致します。

## 編集後記

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。2020年はコロナに明け、コロナに暮れた年となりました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、国民生活、特に医療及び社会経済活動が多大打撃を受け、また産業界ではテレワークが急増するなど労働環境も大きく変化しました。新しい年を迎えて、コロナ感染が収束に向かうことを願うとともに、産業保健においても労働者の多様化

した働き方等に対応・支援できるようその役割を果たしていきたいと思ひます。  
（藤岡 滋典）

編集委員（50音順）

圓藤 陽子 清原 達也（代表幹事）

久保田昌詞（担当理事） 鈴木 純子（担当理事）

堤 梨恵 藤岡 滋典 村田 理絵（代表幹事）